

“ちがい”を受け入れ、変わること、 それがダイバーシティ時代の生き方

第1部は、羽衣国際大学教授・ダイバーシティスピーカー(多様性の語り部)・「共笑®(ともえ)」提唱者のにしゃんた氏より、ダイバーシティ時代の生き方について、「一人ひとりの“ちがい”」をテーマに講演をいただきました。

講演に続き、各産業別労働組合の代表者によるジェンダー平等推進についての発表があり、とりわけ女性活躍推進に向けた取組みの重要性や気づきを共有しました。

第2部では、産業の枠を越えて交流し、現状の課題や好事例等の情報交換を行いました。



▲“ちがい”について語るにしゃんた氏

6月17日に、産業の枠を超えた女性組合役員・組合員同士の交流や女性活躍推進を目的に「女性組合員交流会」をオンライン併用で開催し、生保労連からは9組合20名(会場14名、オンライン6名)の女性組合役員・組合員に参加いただきました。



▲第一部 熱心に質問をする参加者



▲第二部 産業を超えて交流をする参加者

講演のポイント

- 私たちは否応なく“ちがい”と共生しており、ただ共に生きるだけでは十分ではなく、“ちがい”をもった人同士が、共に楽しみ(共楽)、共に学び(共学)、共に成長し(共育)、共に生き活かされ(共活)、共に笑う(「共笑®」)ことが理想的な共生だと考えられる。
- 組合活動において、組合員を幸せにするという強い志をもって活動していると思うが、この「共笑®」という考え方もぜひ意識して、引き続き活動を進めていただきたい。

参加者の感想

- “ちがい”を受け入れ、自身が変わることの大切さを感じた。また日本には“ちがい”を受け入れるDNAがあるという話も印象的だった。
- “ちがい”について怖いというイメージがあり、無意識に排斥、同化、すみ分けを行っていたのかなと講義を通じて感じた。
- 異なる産業別労働組合の取組みを聞いて参考になった。似ているところもあれば、全く仕組みや習慣が違う部分もあるため、自分の所属組合の当たり前が当たり前でないことに気づく機会になった。